

内服のための説明書 <ビクトルビ配合錠>

内服の意義

- ☐ 針刺しなどでH I V汚染血液に曝露された場合の感染のリスクは、0.5～0.3%とされており、B型肝炎やC型肝炎の同じような曝露の場合の感染リスクに比べそれぞれ1/100～1/10と低いですが感染リスクが0%ではありません。
- ☐ 今のところ感染が成立してしまった場合、治癒できるような治療法は確立されていません。
- ☐ 感染直後に予防薬を内服することで感染のリスクを低下させることができます。

内服に当たっての注意点

- ☐ 妊娠の有無を確認しました。
この薬剤は、妊娠中でも内服可能とされていますが、妊娠初期の胎児に対する安全性が確立されている抗HIV薬は、現時点では存在しません。
- ☐ B型肝炎がないことを確認しました。
B型肝炎患者がこの薬剤内服を中止した場合、肝炎が悪化することがあります。従って、この薬剤を服用する前には、必ずB型肝炎の有無を調べてもらう必要があります。
- ☐ 腎機能障害がないことを確認しました。
腎機能障害がある場合、エムトリシタビンの血中濃度が上昇することがあります。

- ☐ 予防内服される抗H I V薬

薬 剤 名	ビクトルビ®配合錠 (BIC/TAF/FTC)
飲 み 方	 ビクトルビ配合錠 (1 錠)
	• 1 日 1 回 (食事の影響なし)
保 存 方 法	室温保存
副 作 用	主な副作用として、悪心、下痢、頭痛があります。重大な副作用としては、腎不全、重度の腎機能障害、乳酸アシドーシス、脂肪沈着による重度の肝腫大（脂肪肝）があります。
注 意 点	リファンピシン、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、ホスフェニトイン、アパルタミド、セイヨウオトギリソウ含有食品、エンザルタミドを服用・使用している場合、服用することができません。注意薬もありますので他院にかかっている人は、必ず内服している薬剤を責任医師に見せてください。また、他院に行く時も、この予防薬を内服していることをお伝えください。

薬剤画像 出典:ギリアド・サイエンシズ株式会社 G-STATION 製品情報

<https://www.g-station-plus.com/ta/hiv/biktarvy/basic>